

音階(スケール)

楽典和声講座 #03 ～ スケールが変わると雰囲気が変わる

今回扱う内容は……

1. スケールとは? ～ 音の幅の積み重ね
2. 長音階 ～ 明るい音階
3. 自然短音階 ～ 暗い音階
4. 和声的短音階 ～ ちょっと改良しました
5. 旋律的短音階 ～ メロディーに使えるように!

1.スケールとは？ ～音の幅の積み重ね

楽典和声講座 #03 音階(スケール) ～ スケールが変わると雰囲気が変わる

「スケール」って？

- スケール = 音の幅の積み重ね
 - ✓ 初めの音(主音)から次の音までこの幅、次はこの幅……という決まり
 - ✓ 初めの音(主音)からオクターブ上までをどう分けるか？という規則
 - ✓ 和音やメロディは、原則としてスケールの中の音だけを使う
 - 使える音に制限をかけるイメージ！

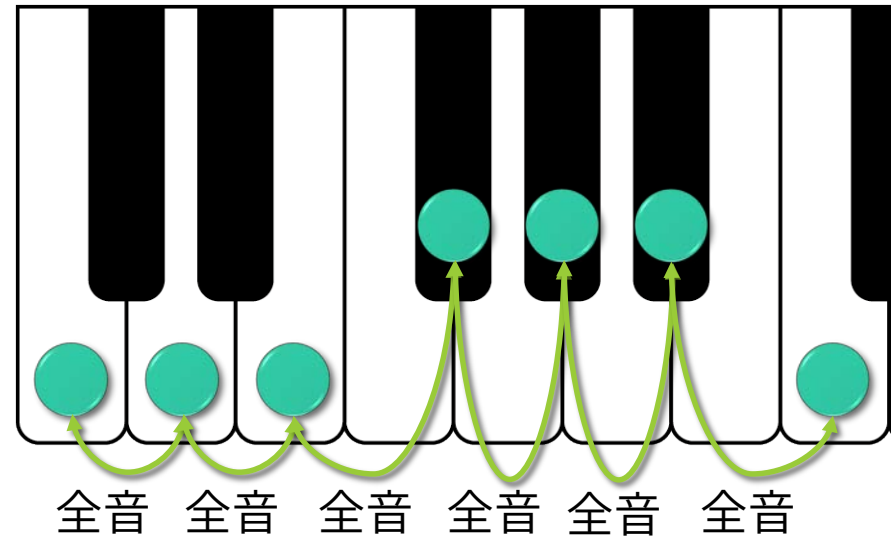
(中級者向け補足)

混乱を避けるため本講座では主音をCに固定します(短音階はA)。
適宜移動ドに読み替えるか、移調してください。

〔スケールの例〕 全音音階



「全音音階.mp3」

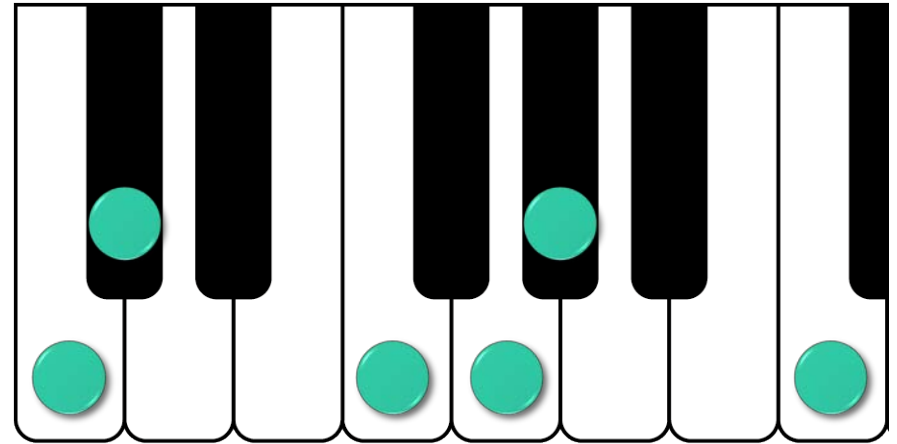


- 全音の幅のみで構成されている音階
 - ✓ 定義どおり「幅を定めている」ので、これもスケール!
 - ✓ ただ、ちょっと気持ち悪い(あまり実用的ではない)
 - ✓ ドビュッシーやラヴェルがよく用いたらしい

みやこぶし 〔スケールの例〕 都節音階



「都節音階.mp3」

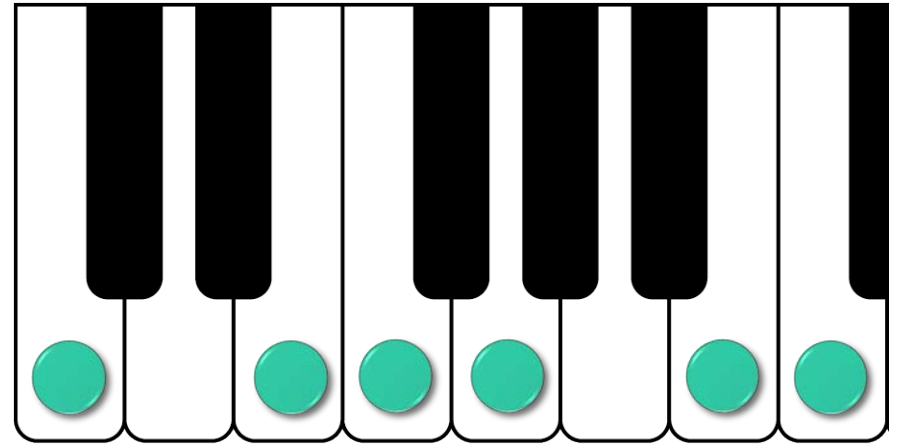


- 日本独特の音階
 - ✓ 「さくらさくら」など、近世邦楽によく用いられた
 - ✓ 日本では5音からなる音階(ヨナ抜き音階・ニロ抜き音階)が、今でもよく用いられる
 - ✓ 例:「上を向いて歩こう」(坂本九)・「夏祭り」(JITTERIN' JINN)
「にんじやりばんばん」(きやりーぱみゅぱみゅ)・「恋するフォーチュンクッキー」(AKB48)

〔スケールの例〕 琉球音階



「琉球音階.mp3」

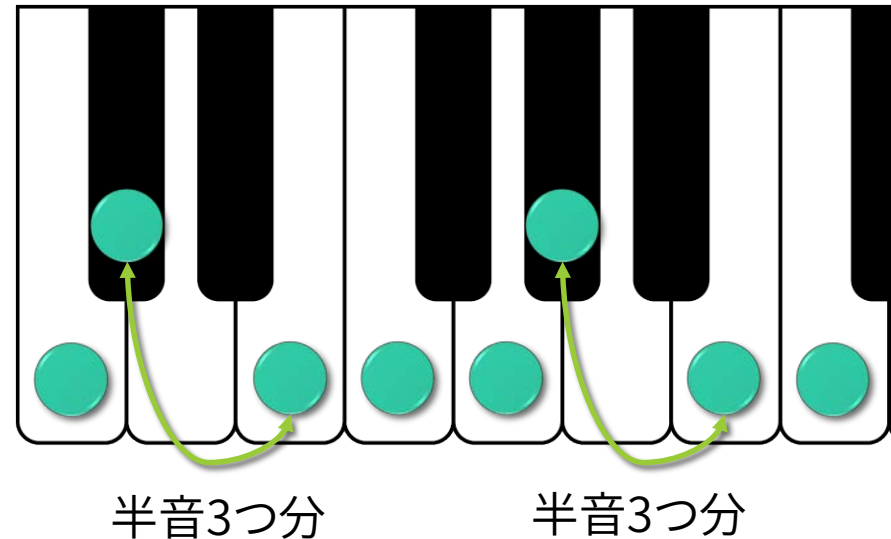


- 琉球(沖縄)で用いられる音階
 - ✓ 都節音階と同じ、5音音階(ニロ抜き音階)である
 - ✓ 「スケールの中にある音だけを使う」だけで沖縄感が出る

〔スケールの例〕 ジプシー音階



「ジプシー音階.mp3」



- ジプシーの民族音楽で使われる音階
 - ✓ 音の幅が不規則なので、不安定に聴こえる
 - ✓ 特に、半音3つ分の幅が2つもある

「スケール」＝ 雰囲気

- スケール = 音の幅の積み重ね
 - ✓ 地域・文化によって、様々なスケールがある
 - ✓ スケールが変わると、雰囲気が変わる
 - ✓ 特に西洋音楽でよく用いられるのが以下の2つ
 - 長音階 = 明るいスケール
 - 短音階 = 暗いスケール

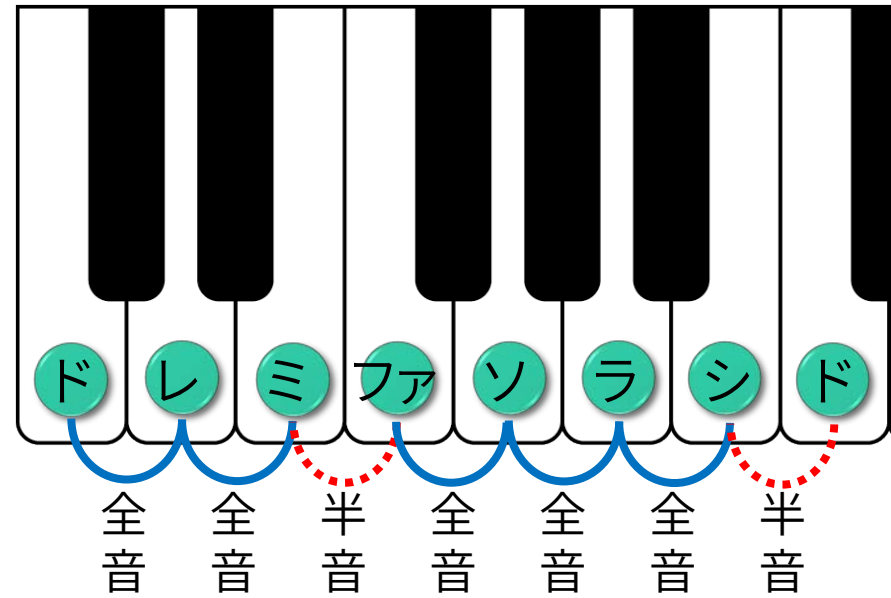
2.長音階 ～明るい音階

楽典和声講座 #03 音階(スケール) ～ スケールが変わると雰囲気が変わる

長音階



「長音階.mp3」



- 言わずと知れた「ドレミファソラシド」
 - ✓ 明るい「雰囲気」を持った音階
 - ✓ 白鍵のすべてを使い、黒鍵は使わない (C-durのとき。詳しくは第5回で)
 - ✓ 音の幅は「全全半全全全半」

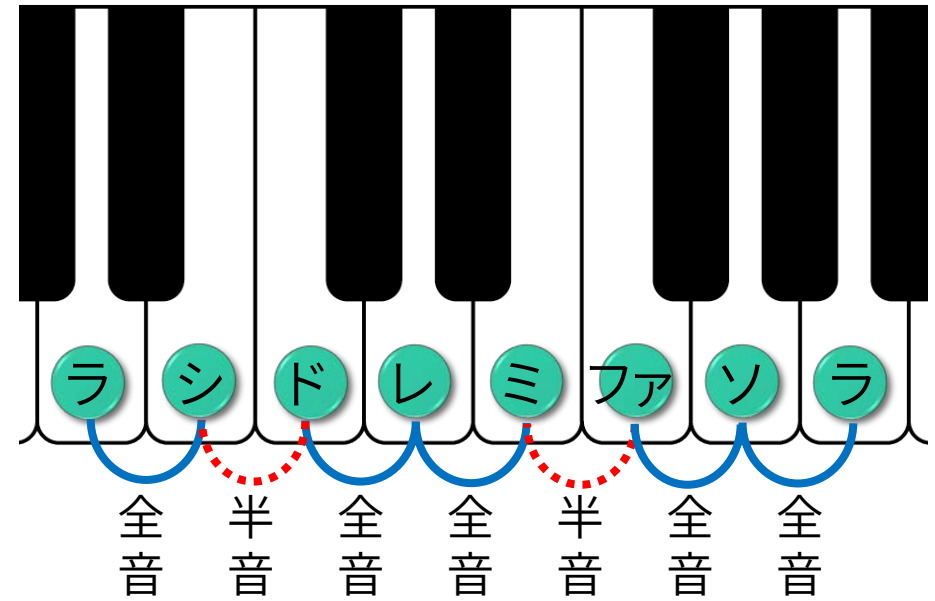
3. 自然短音階 ～ 暗い音階

楽典和声講座 #03 音階(スケール) ～ スケールが変わると雰囲気が変わる

自然短音階



「自然短音階.mp3」

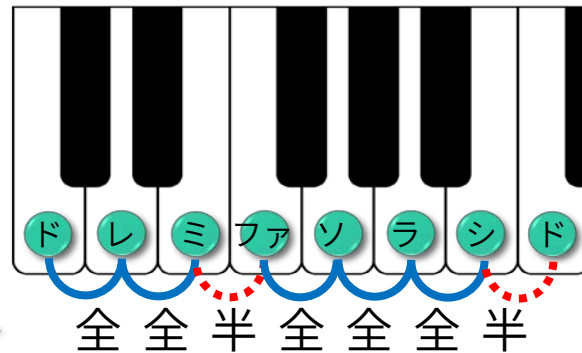


- 長音階とはちょっと違う音階
 - ✓ 暗い「雰囲気」を持った音階
 - ✓ 白鍵のすべてを使い、黒鍵は使わない (a-mollのとき。詳しくは第5回で)

自然短音階 ≠ 長音階??

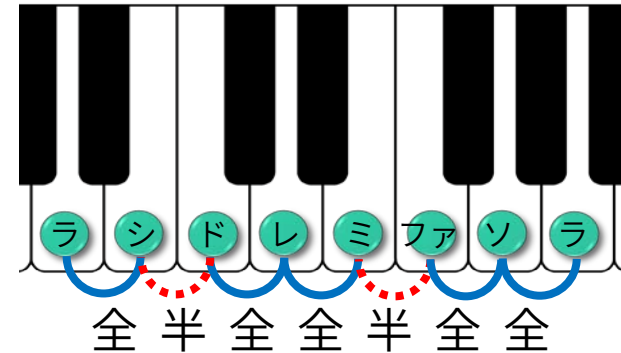
- 使っている鍵盤は長音階と同じ白鍵
 - ✓ 違いは、弾き始める位置(主音)だけ!
 - ✓ だが、雰囲気は真逆
 - ✓ スケールは音の積み重ねなので、自然短音階 ≠ 長音階

音の幅の積み重ね
として見ると……



長音階

≠



自然短音階

4.和声的短音階 ～ ちょっと改良しました

楽典和声講座 #03 音階(スケール) ～ スケールが変わると雰囲気が変わる

主音と導音

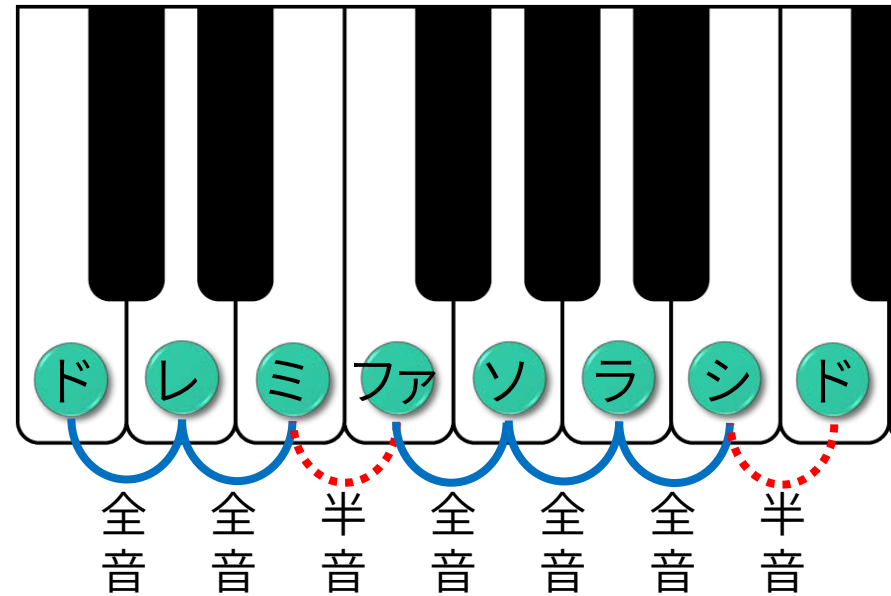
- 主音 = スケールの基準となる音 (弾きはじめの音)
 - ✓ 「ドレミファソラシド」なら、ド = 主音
 - ✓ 主音から出発して、主音に帰ってくる → 「安心感」をもつ
 - やった! やっと主音に戻ってきたぞ!
- 導音 = 主音の1個前の音
 - ✓ 「ドレミファソラシド」なら、シ = 導音
 - ✓ 導音 = 主音を導く音 → 主音への「期待感」をもつ
 - よし、もうすぐ主音だ! あともうちょっと頑張ろう!

長音階における導音



「長音階.mp3」

- シ → ドは「半音」の幅
- ✓ 導音と主音が近い
 - 期待と安心が大きい
 - 「シ」は導音として強い力を持つ



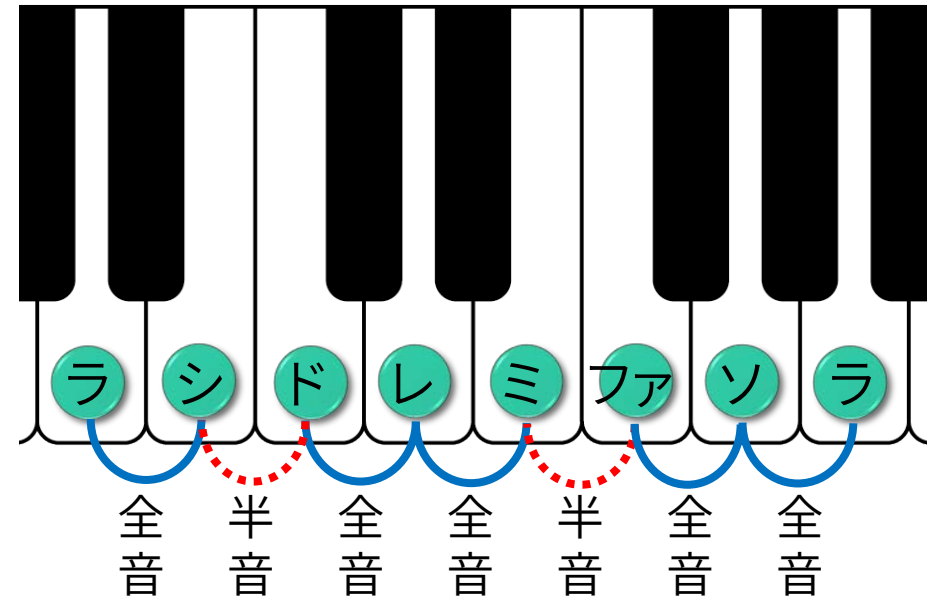
ここが半音だから
シは強力な導音になる!

自然短音階における導音？



「自然短音階.mp3」

- ソ → ラは「全音」の幅
 - ✓ 導音と主音が遠い
 - 期待と安心が小さい
 - 「ソ」は導音として弱い
 - ✓ 導音と呼ばないことすらある



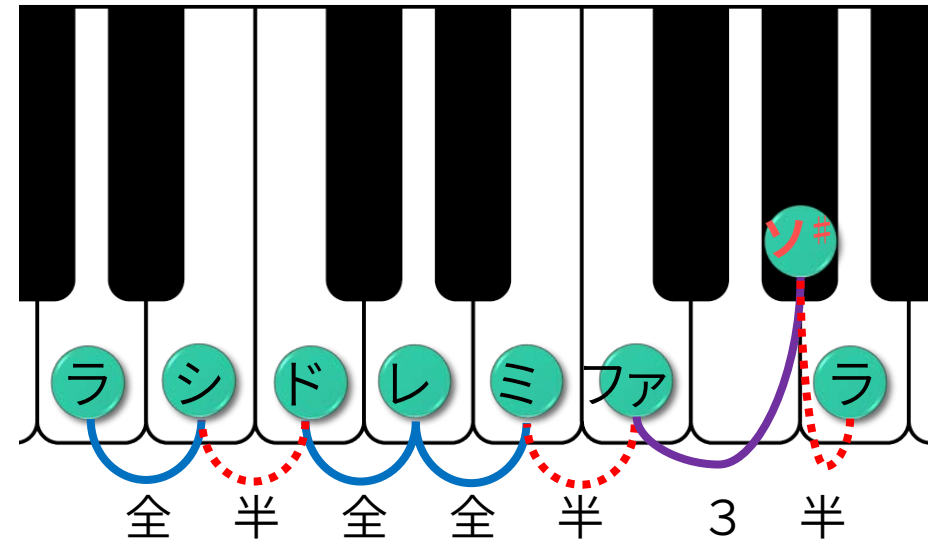
ここが全音だから
ソは導音として弱い

解決策：和声的短音階



「和声的短音階.mp3」

- ソを半音上げる
 - ✓ ソ[#] → ラは「半音」
 - ✓ ソ[#] は強力な導音になる!



ソを半音上げて
導音にしちゃえ!

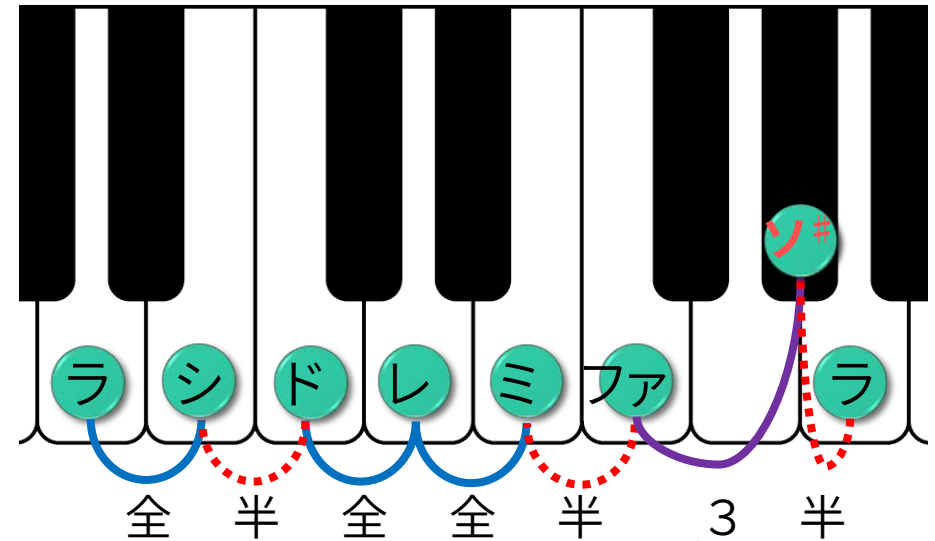
5. 旋律的短音階 ～メロディーに使えるように!

楽典和声講座 #03 音階(スケール) ～ スケールが変わると雰囲気が変わる

和声的短音階の問題点



「和声的短音階.mp3」



➤ ファ → ソ# は「半音3つ分」

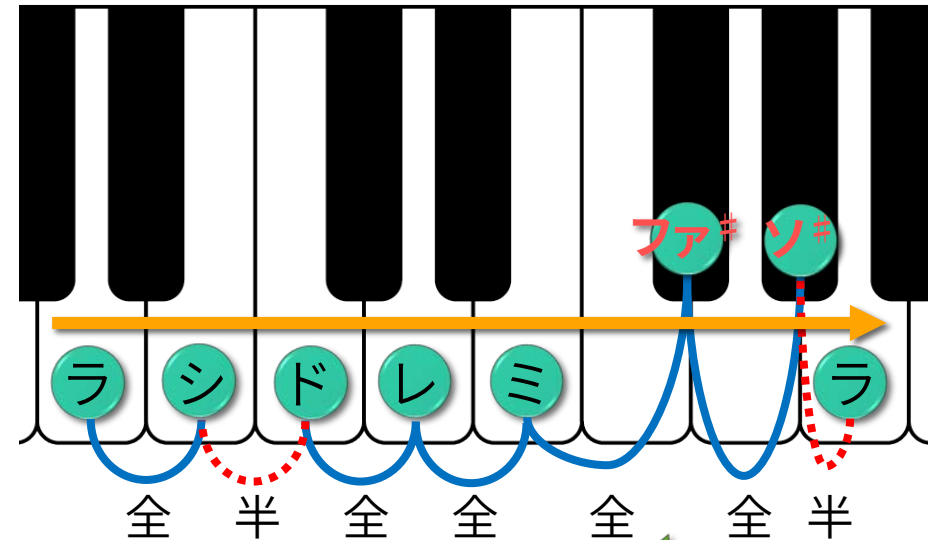
- ✓ あまりに広い
- ✓ 和音を作る分には問題ない(縦の繋がり)
- ✓ メロディの中では不自然な落差ができる(横の繋がり)

半音3つ分!
広すぎる!

解決策：旋律的短音階



「旋律的短音階.mp3」



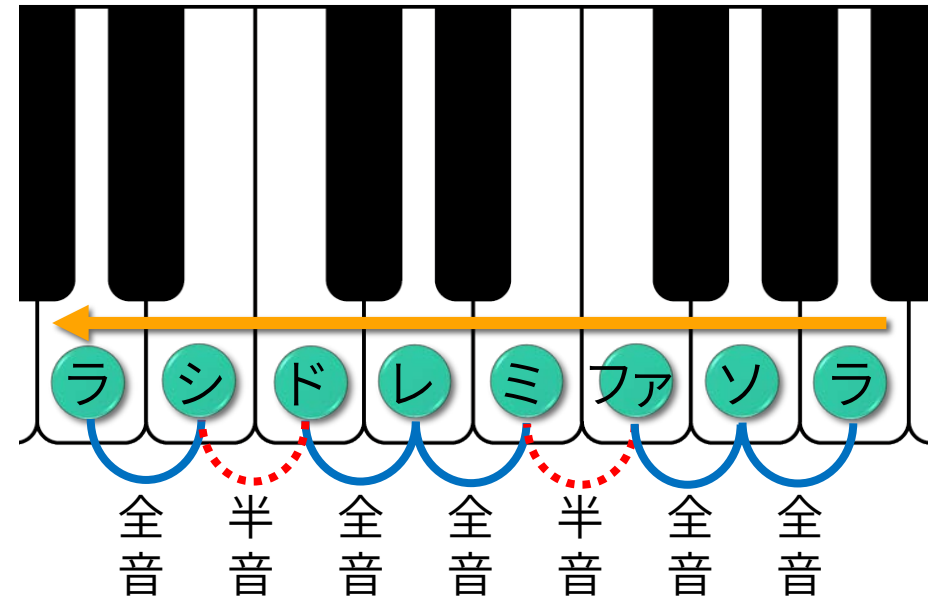
- ファも半音上げる
 - ✓ 不自然な落差はなくなった
 - ✓ メロディが音階を上がっていくときに使う

ファも半音上げる

旋律的短音階の下行形



「旋律的短音階下行形.mp3」



- メロディが音階を下りるとき
 - ✓ そもそも導音が必要ない
 - ✓ もと通り、自然短音階を使ってよい

〔まとめ〕 西洋音楽のスケール

- 長音階 = 明るい音階 (ドレミファソラシド)
- 短音階 = 暗い音階
 - ✓ 自然短音階 = 基本となる短音階 (ラシドレミファソラ)
 - ✓ 和声的短音階 = 和音で使えるように改良 (ラシドレミファソ[#]ラ)
 - ✓ 旋律的短音階 = メロディで使えるように改良
 - ✓ 上行形 = ラシドレミファ[#]ソ[#]ラ
 - ✓ 下行形 = ラソファミレドシラ (自然短音階と同じ)

今回扱った内容

1. スケールとは? ~ 音の幅の積み重ね
2. 長音階 ~ 明るい音階
3. 自然短音階 ~ 暗い音階
4. 和声的短音階 ~ ちょっと改良しました
5. 旋律的短音階 ~ メロディーに使えるように!

Next : #4 音程 ~ 音の幅が響きを決める!